

WHILLの月刊誌

WHILL MAGAZINE

2017
DEC 12

Design your own road

WHILL株式会社

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-1-40 横浜市産学共同研究センター実験棟F区画

WHILLコンタクトデスク TEL: 0120-062-416 (IP電話の方: 050-3085-9840)

受付時間: 9:30~17:00 (月~金曜日)

HP: <http://whill.jp/contact>



WHILL



お客さまインタビュー

HIROSHI ARITA

VOLUME. 24

有田 浩さん

若返った気分になりました。

有田様と奥様の鈴木様はともに、大型コンピュータのシステム管理、および企画・営業に従事されていました。退職後、インターネットが社会に浸透し始めた頃から、パソコン教室を兼ねたカフェや、焼き物（陶器）のネットショップを経営されてきました。2014年10月の販売開始と同時にModel Aを購入された有田様は、今年の9月にModel Cもご購入いただき2台を併用されています。鈴木様もModel Aに乗る有田様と一緒に、ときどきModel Cでお出かけされています。

「仕方なく車いすに乗る」ではない

WHILLはModel Aが発表されたときに新聞で知りました。以前から、電動車いすを検討していましたが、一般的な電動車いすでよく使われているジョイスティックでの操作には、なかなか慣れませんでした。WHILLのマウスコントローラーでの操作はパソコンのマウスと同じように直感的で、思ったように動くことができたので、購入を決めました。一番決め手になったのは、やはり見た目ですね。WHILLには「カッコいいから乗りたい」という気持ちを芽生えさせるデザインがあります。「仕方なく車いすに乗っている」ではなくて、「カッコいいものに乗っていいでしょう」と誇らしげな気持ちが生まれるのがWHILLの魅力だと思います。



お気に入りのカラー【GOLD】

華やかな色が好きなので、ゴールドにしました。年をとるとだんだん地味な格好をする傾向があるけれど、私たちはいつもカラフルなものを身に付けたいと思っています。服装もどこかに赤を入れるようにしています。WHILLのカラーバリエーションも花柄とか、もっと華やかにペイントされたものがあると、その日の気分付け替えたりして楽しめそうですね。



自分の体の一部のように感じる

WHILLは後ろから他人に押してもらわなくてもいいので、「自分で走っている」といった自立心を刺激してくれます。最近では、車いすに乗っているというより、自分の体の一部のように感じるんです。自由自在に動けるという感覚は、自分の脚で歩いているという感覚と一致するように思います。年を取って脚も悪くなりましたが、もう一度自由に動けるという意味で、若返った気分になりました。

いくら乗っても飽きない、どこにでも乗っていききたい、WHILLは私にとってそんな乗り物です。ですから、自動車やタクシーに乗せて、遠いところにもWHILLと共にいきたいとずっと思っていました。そんなときにModel Cが発表されたので、発売と同時に購入を決めました。

「今日、ここ行こう」が叶う

早速タクシーでお出かけしてみたのですが、タクシーのトラックにも簡単に乗せることができました。「今日、ここ行こう」と思い立ったときに出かけることができ、移動した先でもWHILLで思うままに動けます。Model Cで行動の自由は格段に広がりましたね。

せっかくWHILLを2台購入したので、3km先の大型ショッピングセンターまで、夫婦2人でツーリングするのも面白そうですね。WHILLが2台並んで走っていたら絶対目立つし、未来感があってカッコいい。それがまさにパーソナルモビリティですね。

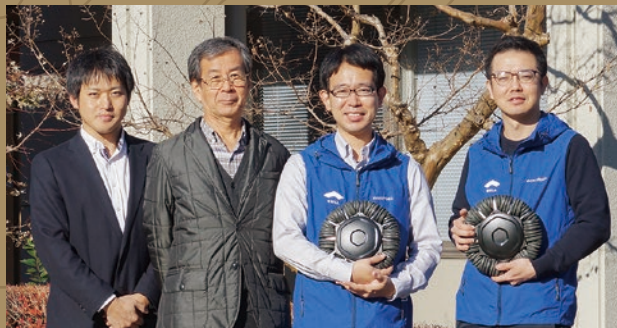


WHILL Model C 開発秘話

STORY OF MODEL C

高い走破性と小回りを両立 WHILLのシンボル、オムニホイール

Model Cの前輪に採用されているのは、最先端の技術を結集し、独自に開発されたオムニホイール(全方位タイヤ)。Model A発売当初からWHILLのシンボルとして、注目されてきました。



オムニホイール開発グループ
(左から) 細國敬祐、坂東一夫、杉本俊太郎、中川智之

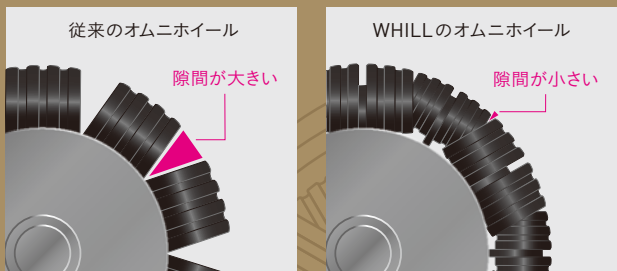
「段差もラクラク」なのに「その場回転」

一般的な電動車いすが乗り越えられる段差は2〜3cmと言われており、お店の入り口や歩道と車道の間にある「ちょっとした段差」が車いすユーザーにとって大きなバリアでした。単純に前輪を大きくすれば、より高い段差を乗り越えられるようになりますが、シニアカーやバイクのような大回りな動きになり、小回りが利かなくなってしまいます。段差も乗り越えられ、狭い場所でもスムーズに動けるようにするにはどうすれば良いか。その問題を解決したのが、オムニホイールでした。いくつかの車輪が組み合わさって1つのタイヤを構成しているオムニホイールなら、横方向に回る小さい車輪を使って方向転換するので、前輪が大きくてもその場での回転が可能です。あわせて、後輪に高出力のインホイールモーターを採用することにより、5cmの段差を快適に乗り越えるパワーと、回転半径76cmという小回りの両方を実現しました。ちなみに、前輪の向きが固定されていることによって、一般的な車いすのキャスターにありがちな、方向転換の際にタイヤが足に当たるといった不便も解消しています。



実用化の難しさ

オムニホイールは主に、コンテナなどの搬送手段、および電動台車やロボットの駆動輪として利用されており、人が乗る製品への実用化においては振動をいかに低減するかが大きな課題でした。開発メンバーの最古参である坂東は、2007年にトヨタ自動車グループを定年退職したあと、独自にオムニホイールの改良を行っていました。その後WHILLへジョインし、5年間の歳月をかけ、現在の振動を抑えたオムニホイールの開発を行いました。大小24個の車輪を組み合わせ、車輪どうしの隙間を狭くすることによって、振動を抑えることに成功したのです。



日本精工株式会社の協力

Model Cのオムニホイール開発において大きな後押しとなったのが、日本精工株式会社(以下、NSK)からのベアリングの提供です。ベアリングは1つのオムニホイールに48個(他の部分も合わせると、1台のWHILLに100個以上!)も使用されている、スムーズな走りに欠かせない重要な部品です。自動車業界で古くから部品製造を行ってきた信頼性のある企業から、高品質のベアリングを低コストで提供していただけたのも、オムニホイールの開発に伸び代と新規性があると感じていただけたからだと思います。今後もさらなる乗り心地の追求を、NSKと共に進めていきます。

NEWS

あなたの街にもWHILL 取扱店が！？

弊社ホームページの「店舗検索」を、より一層使いやすくリニューアルいたしました。お近くのWHILL Model AとModel Cの取扱店を検索することができます。モデル別の検索や、購入／介護レンタル別検索も可能です。この機会に、ぜひお近くの店舗を探してみてください。

<https://whill.jp/select-locator>



お住まいの都道府県をクリックすると、



地図上にWHILL 取扱店が表示されます。